

今回紹介する団体： 青森県農産園芸課、青森県農業共済組合

取組概要

内容：令和4年8月3日からの大雨で河川等が氾濫した一部市・町では、広範囲に長期間の冠水が発生し、水稲の減収や品質低下の影響が懸念された。

そこで、県農産園芸課では、農業共済組合に被害申請された冠水地域の38地点の抜取(実測)調査データと玄米サンプルを提供してもらい、大雨による冠水被害の影響をとりまとめた。

※ 冠水とは、水稲が穂先まで完全に水に浸かった状態にあること。

＜調査項目及び担当者＞

出穂期、冠水日数：農家からの聞き取り申告

収量：共済組合の実測

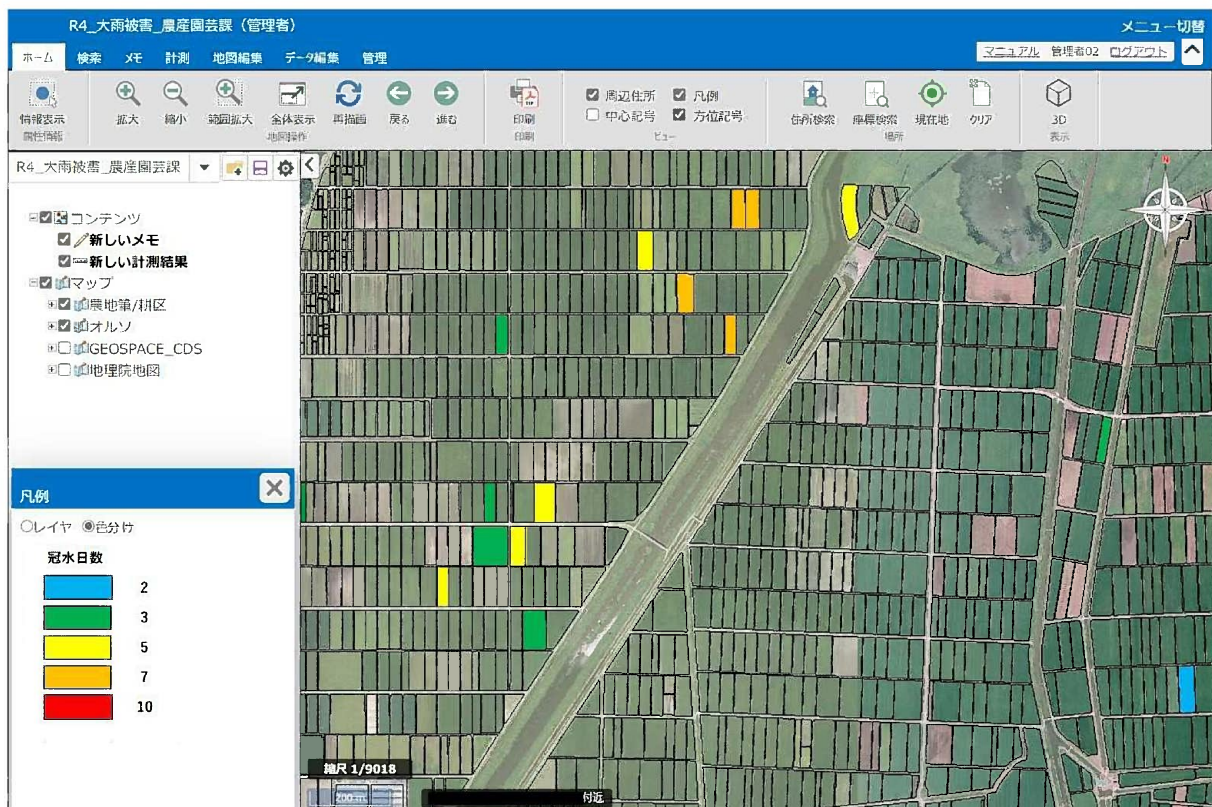
品質：農産園芸課が農林総合研究所の穀粒判定機で調査

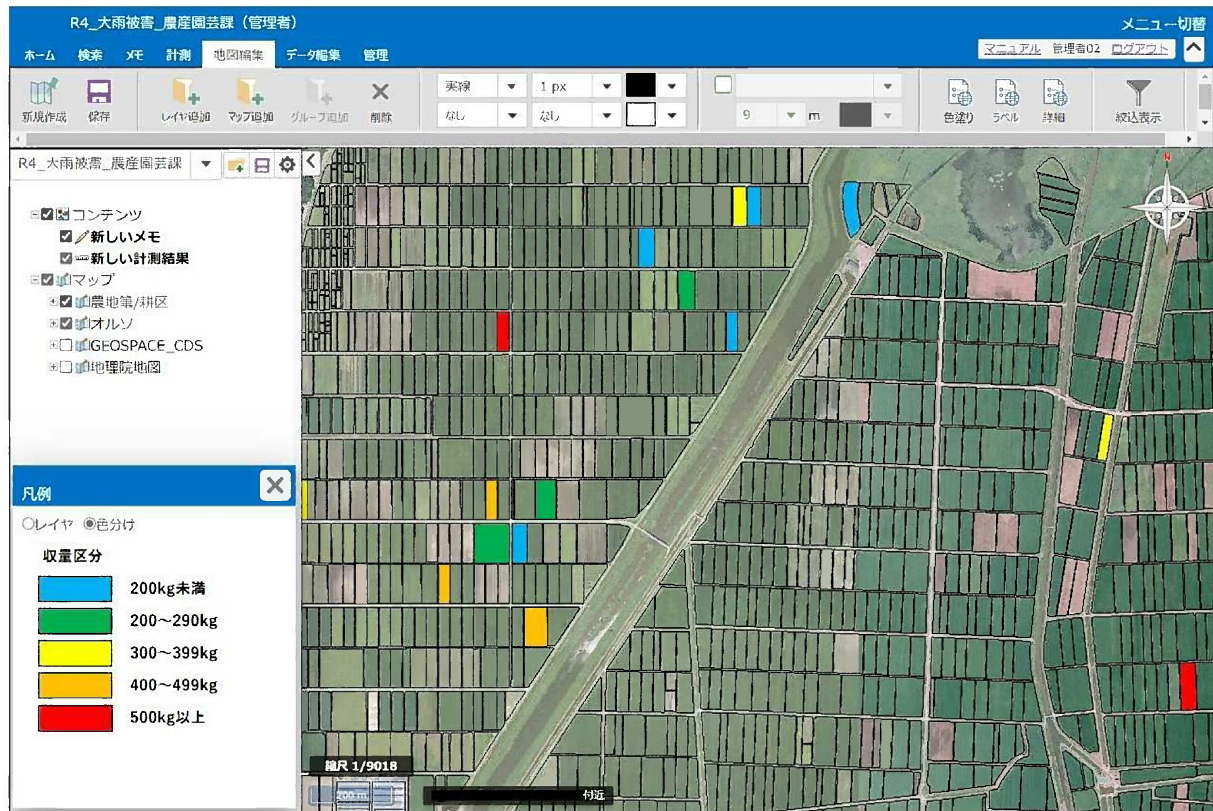
検査等級：JA指導員による格付け

作図：本会が運営管理する「水土里情報システム」を使用

経緯：直ちに現地調査を行うことは困難であったが、農業共済組合には同地域冠水地域で多数の被害申告があげられ、抜取調査(収量調査)が行われた。

これを受けて、被害の全体像把握と今後の事後対策に活用するため、抜取調査データと玄米サンプルを活用して、冠水期間の長短と収量・品質の関係など被害状況をとりまとめた。





取組による効果

冠水日数、収量、品質のそれぞれについて分析するため、約15項目の調査内容を属性化し、水土里情報システム上で属性を整理したところ、下記のような傾向について可視化された。

- ・氾濫か所に近いほど冠水日数が長い
- ・冠水日数が長いほど収量が低下し、出穂前の方が出穂後より影響が大きい
- ・冠水日数が長いほど品質が低下
- ・冠水は収量よりも品質に大きく影響

今後の活用予定

県農産園芸課では、今回の被害状況把握と今後冠水被害があった場合の事後対策指導資料とする。農業共済組合では、今後の損害評価講習の資料とする。

GISシステムのバージョン情報

水土里情報システム(クラウド版「GISAp Web」ベース)

■お問い合わせ先

青森県土地改良事業団体連合会管理指導部水土里情報支援G

017-723-2406(直通)